

財政難もあり、このままでは、この事業の財源確保が危ぶまれる状況です。

社協では、県に対してこの事業の従来どおりの補助金確保を要望していますが、情勢はきわめて厳しい状況です。

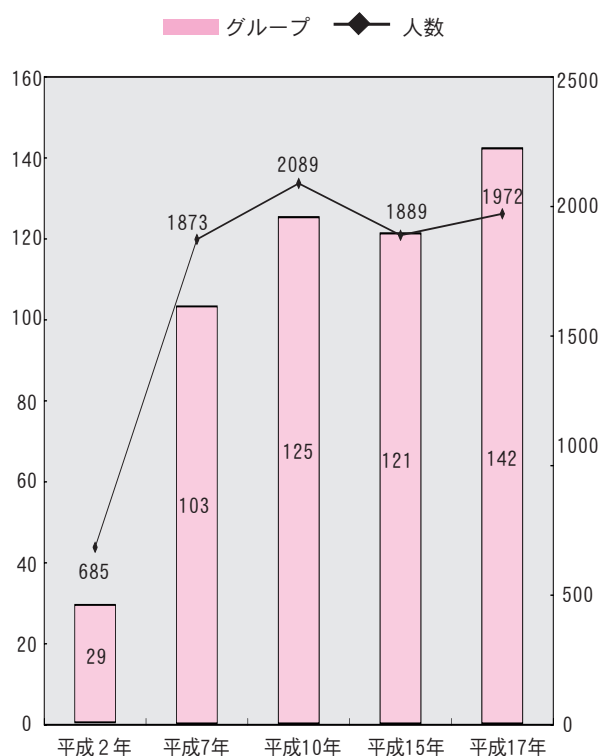
ひろがるボランティア活動とその養成のために全力！

市内のボランティア登録者数は、現在百四十六グループ二千八百八十一名。（市社協ボランティア市民活動センター把握数）その活動も配食サー



災害ボランティアセンター設置の模擬訓練（シミュレーション）

宍粟のボランティア登録数



ビスをはじめ多岐にわたり、そのコーディネートは、社協に設置された四名のコーディネーターが担っており、件数は、昨年一年間で四千九百三十五件。また、相談件数は千七百二十件となっており、まさに大きな役割を果たしています。また、ボランティアの養成を行う講座や入門教室もあり、まさに、コーディネーターは、宍粟市のボランティア活動にとつてなくてはならない存在になっています。

災害ボランティア活動支援のために

合併後、本会が取り組んだ事業として「災害救援マニユ

とくに、情報発信や収集・相談調整活動・ネットワークづくり（協働促進）活動拠点整備・活動機材の貸出などの分野で大きな力を発揮しています。このコーディネーターはすべて常勤で、補助金が削減されると人件費もきびしくなり、ボランティア活動への影響は大きなものがあります。

アルの策定」がありますが、このマニュアルづくりに大きな役割を果たしたのも四人のコーディネーターです。また、平成16年の台風23号による県内の水害被災地へいち早く駆けつけ、県内の市町村社協のコーディネーターや関係者と協働して被災地の災害ボランティア活動に尽力したのもコーディネーターです。当時の宍粟郡5町のコーディネーターが協力し、10日間にわたり被災地の出石町（現豊岡市）へ宍粟郡内のボランティアを毎日派遣し、被災住民の生活支援と復興支援を行ったという大きな実績もあります。

今後、宍粟市が大きな災害を受けた場合に、全国各地から駆けつける皆さんのボランティアのコーディネートは大きな力が要ります。この役割を担うためにも宍粟市社協のボランティアコーディネーターは必要で、今後さらに大きな役割が期待されます。